

大学生に対して行ってきた グローバル人材育成事業を 高校に積極的に開放

取り組みの概要

「日英中トライリンガル育成のための高大接続」を掲げ、グローバル人材育成事業を高校生へ積極的に開放。全学的に教育機会の提供を行うほか、「日英中トライリンガルキャンプ」などもオープンにし、留学の早期化・長期化・複数化につなげています。

進捗・成果

アドバンスト・ブレイスメント(以下AP)本格実施となった平成29年度は、事業取り組み学部である外国語学部のみならず、総合政策学部や医学部、保健学部も含め全67科目を高校生に開放。IELTSなど語学試験対策科目や講座も大学生と一緒に受講できます。現在、9校の高校と覚書を締結し、平成29年度春学期は5名

の高校生がAP科目を履修しました。

同校ではAP制度本来の意義をふまえ、修得した単位がより多くの大学で認定されることを基本方針に掲げています。これまでに桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学と単位互換協定を締結しており、今後も大学間連携の輪を広げていく方針です。

また、英語・中国語の宿泊型研修、プレゼンテーションコンテストなどもオープン化。留学生・大学生・高校生が交流する「日英中トライリンガルキャンプ」は平成28年度、21人の高校生が参加しました。キャンプでは大学生が高校生へピアサポートを行うなど、「大学生による高校生への学修機会の提供」と高大連携の質転換が図られています。平成28年度からは井の頭キャンパス移転に伴い、高校生・大学生が共に学び合う「グローバル関連科目」夏季集中講座もスタート。互いに刺激を与えつつ、能動的学修に従事する理想的な環境が

実現しました。

一方、長期留学に必要なライティング力を育成するため、連携高校の生徒が大学教員やチューターから英文の添削指導を受けるライティングセンターを開設。平成28年度は年間49人の高校生が利用したほか、高校生向けのライティングセミナーも好評です。

高校関係者と意見交換する「杏林APラウンドテーブル」は平成27年度から年に3回、定期的に開かれており、参加高校数は12校。毎回、活発な意見交換がなされ、出された意見は随時、事業運営に反映されてきました。あわせて「高校と大学をつなぐFD/SD」と称する合同研修も毎年実施しています。

高大接続改革事業の一環として開発されてきた「ルーブリック」は、主体性や課題発見解決力などの多面的能力と、総合的な語学力を高校生が自己評価するもので、平成30年度外国語学部AO入試から利用を始める計画です。

学生の声

ライティングセンターの高校生向けコースで、学生チューターとして指導しました。テーマは「隠喩と直喩を使って作文をしてみよう」で、高校生たちは最初、なかなか書き出すことができない様子でした。そこで、文法や文章の構造より、まず自分は何に

ついて書きたいのか、アイデアを大事にするようアドバイスしてみると、高校生たちはスラスラ書けるようになりました。私が添削した英作文を先生から「素晴らしい!」とほめられたときは、本当にうれしかったです。今は英語の先生になるため、教職課程を履修しています。将来は出身地の香港など、世界で語学力を生かした仕事をしたいと考えています。



宮崎 美慧 さん
外国語学部 2 年生

高3のとき、トライリンガルキャンプに参加しました。キャンプでは中国の留学生と交流し、班ごとに文化の違いを調べました。留学生と意見交換しながら情報をまとめるのが興味深く、最後はそれぞれが英語で発表しましたが、多様な意見が出て勉強になりました。キャンプは自分の英語力を試し、異文化を学ぶ貴重な機会であったと思います。また、大学では自主的に物事を調べ、発表することが求められるので、入学前にそのような経験できたのは大きな収穫でした。今度は高校生をサポートする立場で参加してみたいです。将来は英語と同じくらい中国語も堪能になって、異文化交流に役立たいと考えています。



渡辺 紗由 さん
外国語学部 3 年生